

令和5年度 播磨町上下水道運営委員会 (第1回)



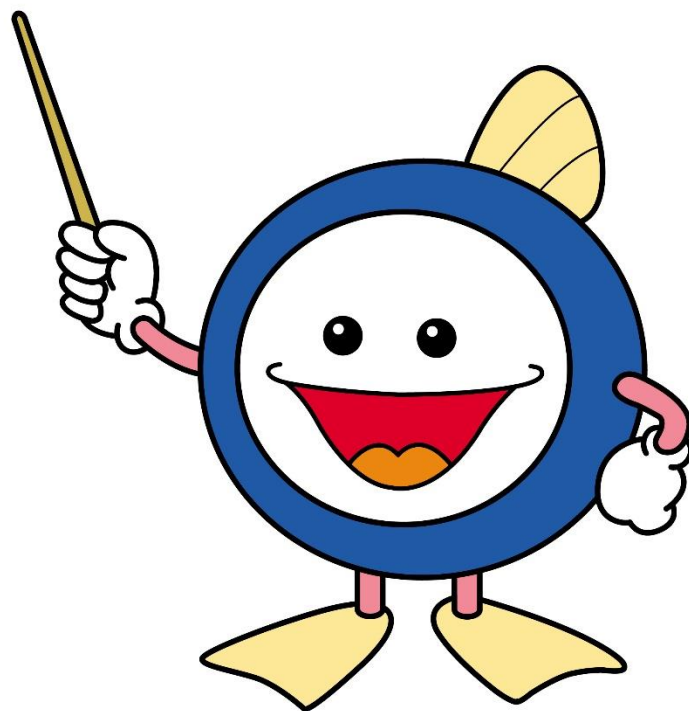
播磨町上下水道課

運営委員会のスケジュール

- ▶ 第1回運営委員会（令和5年12月15日）
 1. 下水道の役割
 2. 播磨町の下水道事業
 3. 今後の課題

- ▶ 第2回運営委員会（令和5年2月下旬頃）
 1. 播磨町下水道事業経営戦略改定案について

1. 下水道の役割

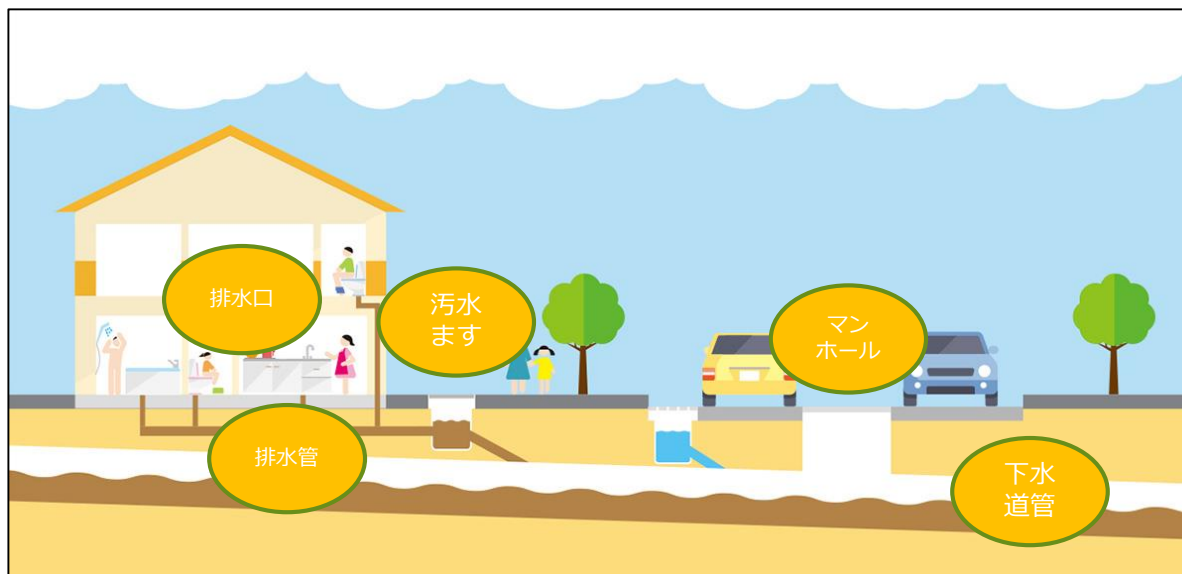


下水道マスコットキャラクター
「スイスイ」

1 下水道の役割①

▶ 公衆衛生の向上

家庭や産業からの汚水を適切に処理し、病原体や有害物質が環境や人々の健康に影響を与えるのを防ぎます。これにより、公衆衛生が大幅に向上します。

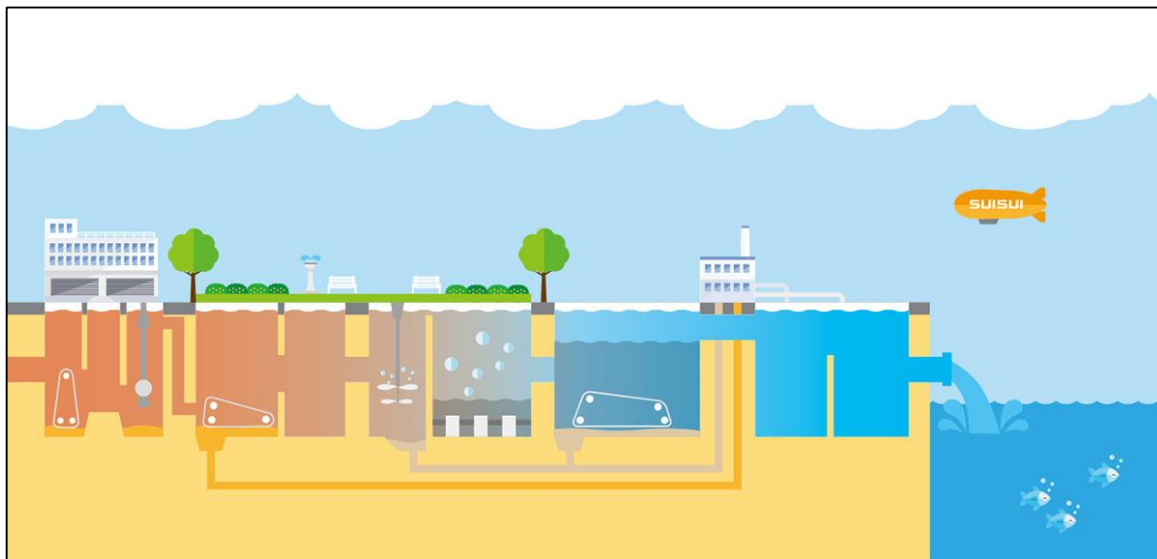


※出典：公益社団法人 日本下水道協会HP

1 下水道の役割②

▶ 環境保護

汚水は、道路下に埋められた污水管をとって加古川下流浄化センター(加古川市尾上町)へ送られ、バクテリアなど微生物の働きできれいな水に処理して川へ放流します。



※出典：公益社団法人 日本下水道協会HP

1 下水道の役割③



加古川下流浄化センター（加古川市尾上町）

1 下水道の役割④

▶ 浸水被害対策

住宅地や道路に降った雨水を効果的に排除し、浸水被害を防いでいます。



※出典：公益社団法人 日本下水道協会HP

1 下水道の役割⑤



古宮第5雨水幹線（播磨町古宮）

1 下水道の役割⑥



上下水道課に展示中の雨水貯留タンク

1 下水道の役割⑦



本荘雨水ポンプ場（播磨町本荘）

1 下水道の役割⑧

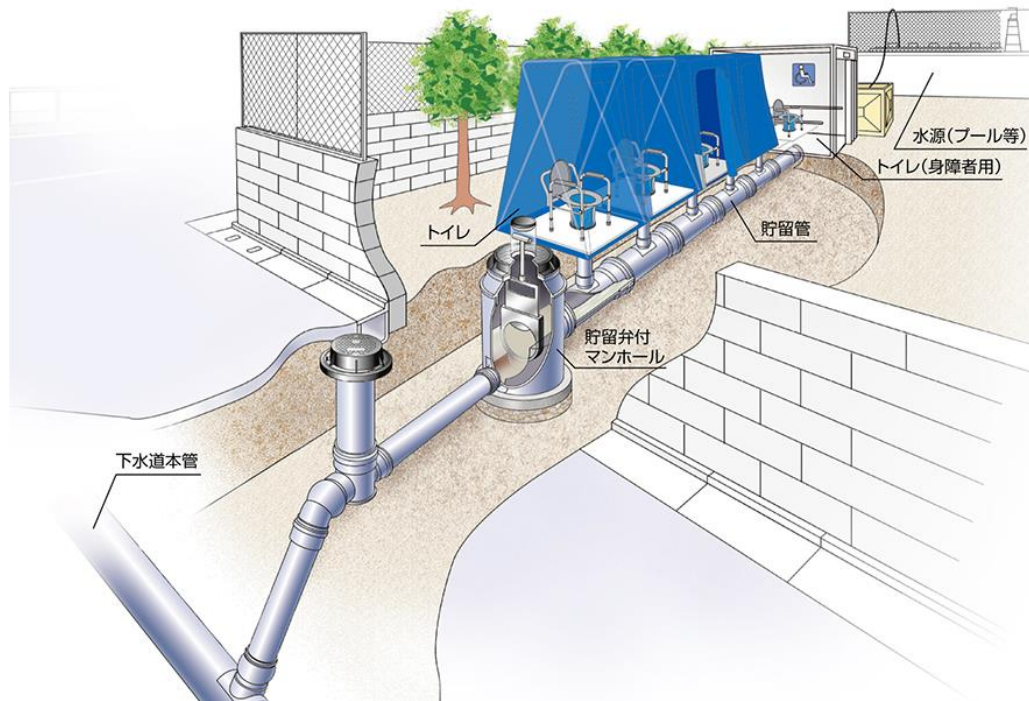
▶ 浜田雨水ポンプ場の建設（令和8年度稼働予定）

雨水を喜瀬川に強制排水することにより、冠水被害の低減を図ります。



1 下水道の役割⑨

- 災害対策としての下水道

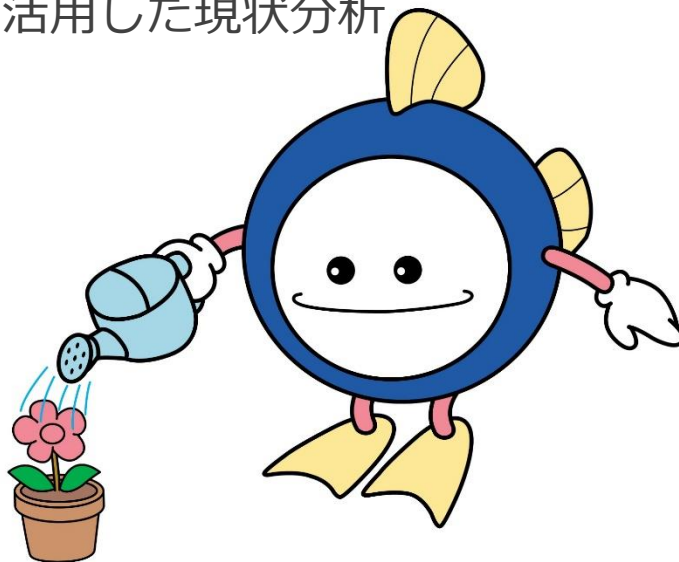


マンホールトイレ

※出典：SEKISUIエスロンタイムズHP

2. 播磨町の下水道事業

- ▶ 2－（１） 播磨町の下水道事業
- ▶ 2－（２） 現有資産の状況
- ▶ 2－（３） 下水道使用料金の水準
- ▶ 2－（４） 経営比較分析表を活用した現状分析



2－（１）播磨町の下水道事業①

▶ 分流式下水道

汚水と雨水を一緒に下水処理場へ送る方式を「合流式下水道」と呼ぶのに対し、汚水と雨水の管路を分けて整備し、汚水は下水処理場へ、雨水は川や海に直接放流する方式を「分流式下水道」と呼びます。播磨町は、分流式下水道を採用しています。

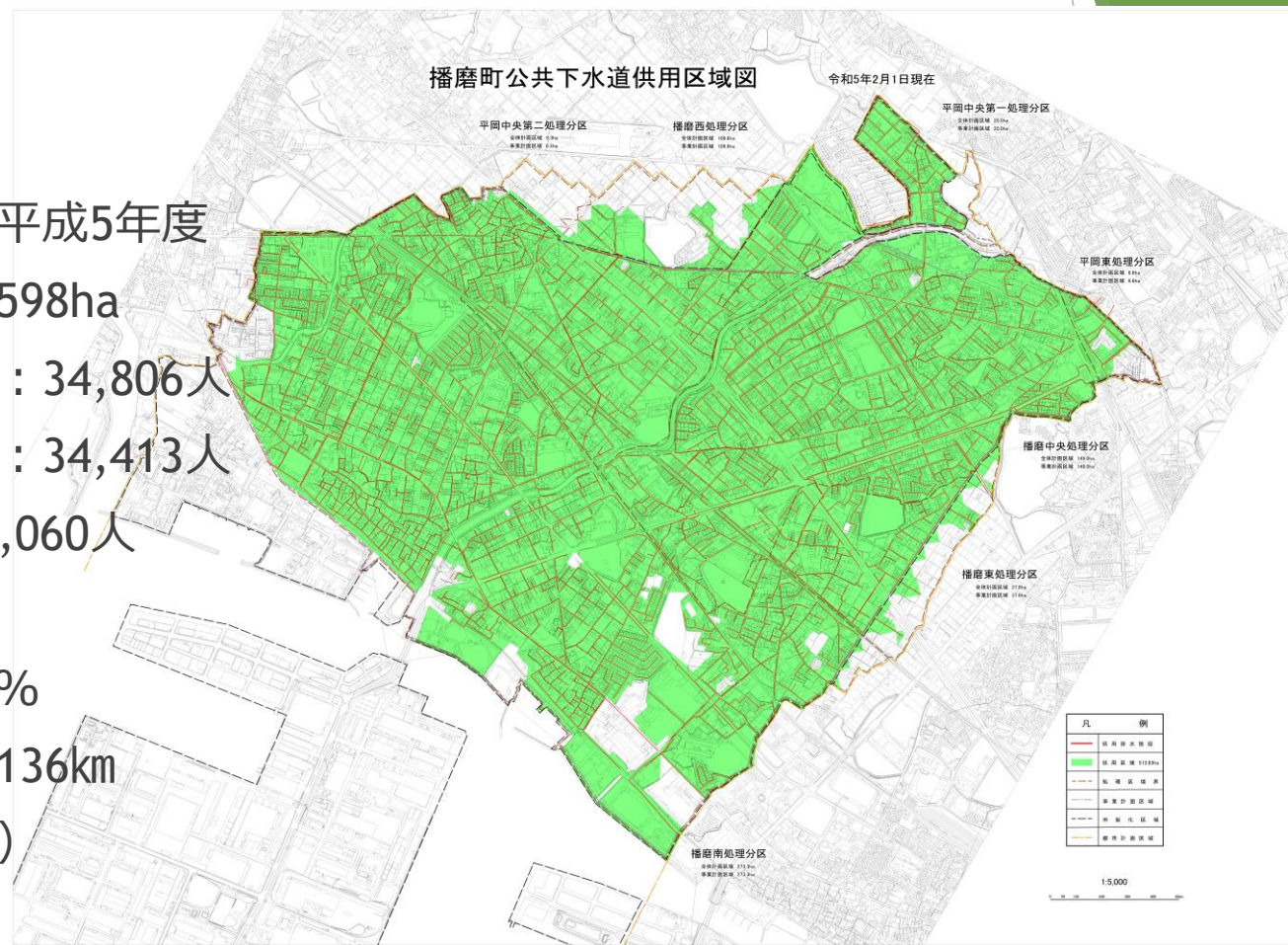
▶ 流域関連公共下水道

播磨町は、独自に下水処理場を有せず、県が有する処理場（加古川下流浄化センター）へ接続する「流域関連公共下水道」です。

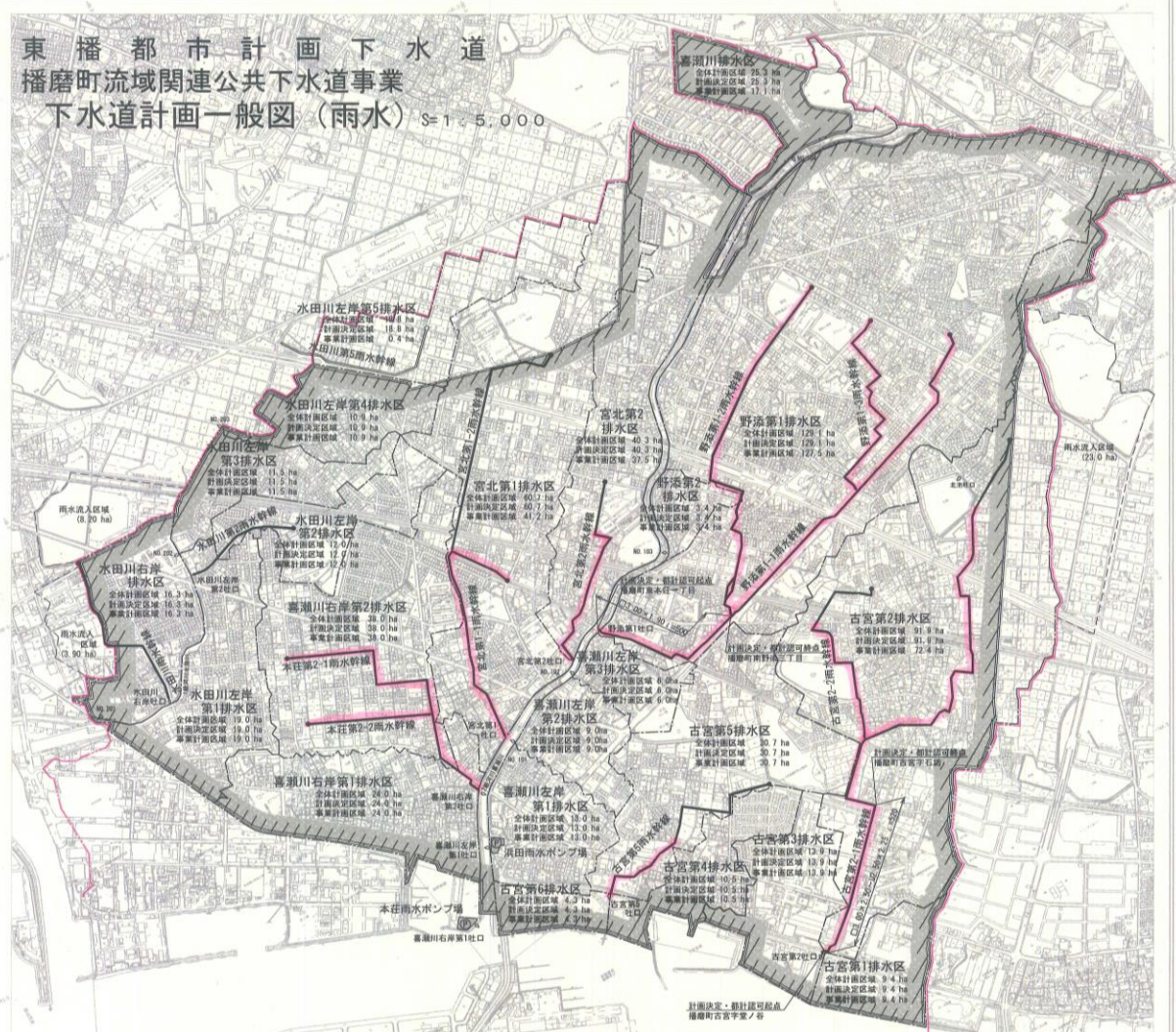
2－（１）播磨町の下水道事業②

【事業の現況】

- ▶ 共用開始年度：平成5年度
 - ▶ 排水区域面積：598ha
 - ▶ 行政区域内人口：34,806人
 - ▶ 処理区域内人口：34,413人
 - ▶ 水洗化人口：32,060人
 - ▶ 普及率：98.9%
 - ▶ 水洗化率：93.2%
 - ▶ 総管路延長：約136km
- （令和4年度末時点）



2－（1）播磨町の下水道事業③



2－（１）播磨町の下水道事業④

▶ 公営企業会計とは

公営企業会計：事業で得た収入を主な財源として、独立採算の原則により特定の事業を
経理する会計

一般会計：町税を主な財源として、教育・福祉・道路・公園の整備など、主に町の
基本的な行政サービスを行う会計

独立採算の原則

下水道事業は、その事業に伴う収入によってその経費を賄い、自立性を もって事業を継
続していくことを原則としている。→污水处理

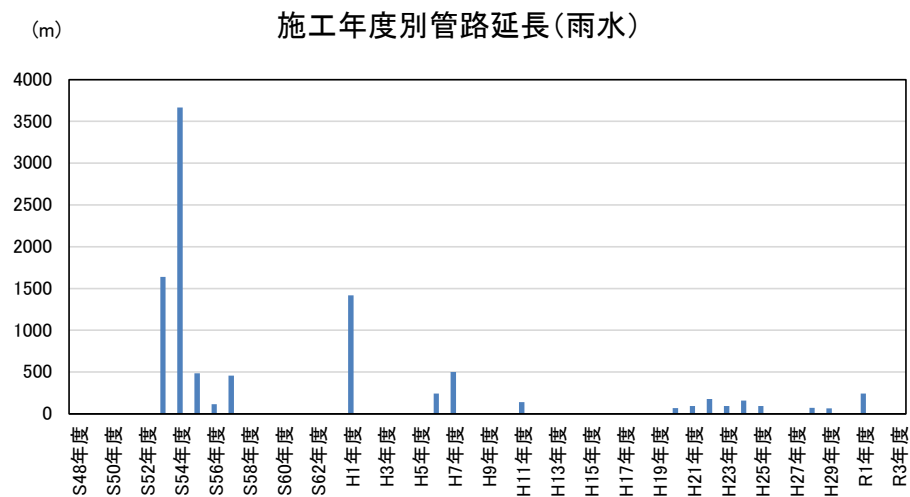
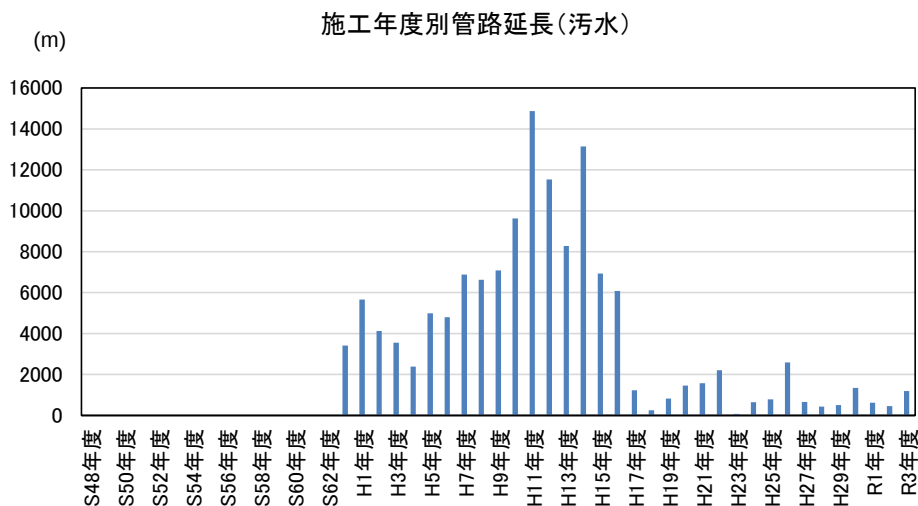
【地方公営企業法第１７条の２】

※その性質上公営企業の経営に伴う収 入をもって充てることが適当でない経費及びその公
営企業の性質上能率的な経営を行ってもなおその経営に伴う収入のみをもって充てること
が困難な経費については、一般会計又は他の特別会計において負担する。→雨水処理

2－（2）現有資産の状況

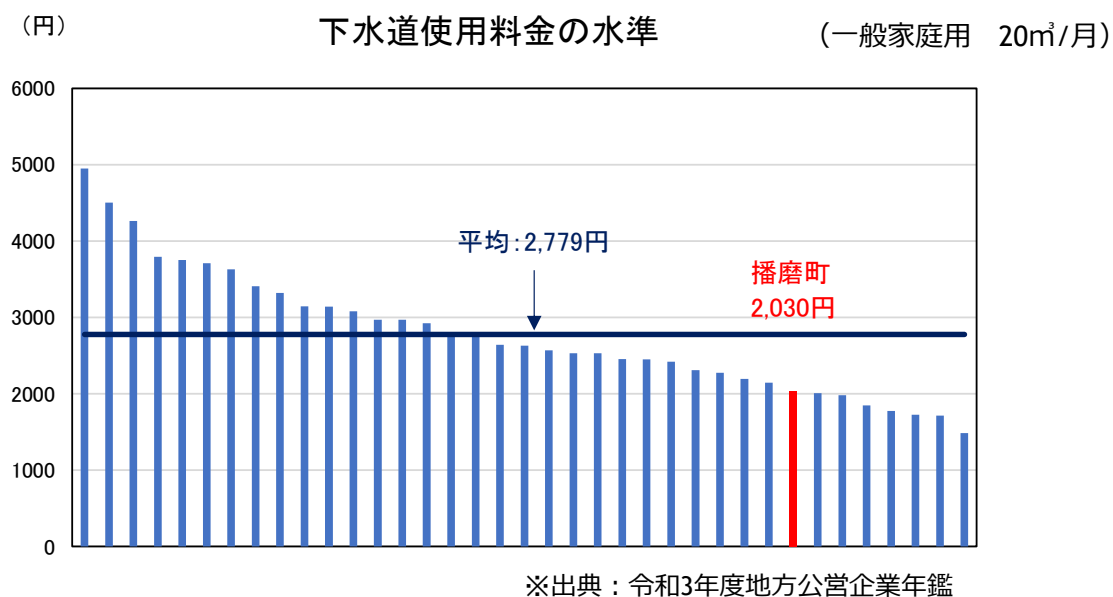
▶ 管路における過去の布設状況

汚水管路の整備は平成5～16（1993～2004）年度に布設したものが多く、また雨水管路整備は昭和53～54（1978～1979）年度に大半の管路を施工している状況となります。これら管路は供用開始から20～30年程度経過していますが、管きよの目標耐用年数（75年）に鑑みると、今後すぐに更新投資が必要になることは想定されません。



2－（3）下水道使用料金水準

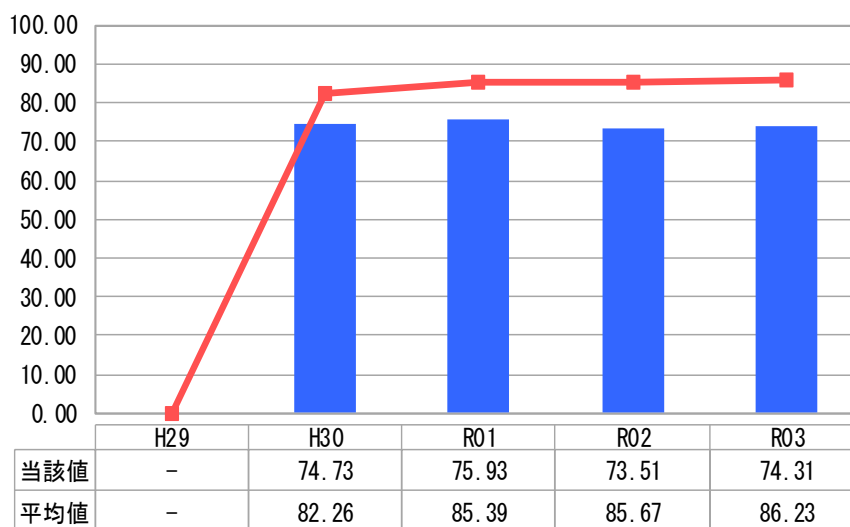
本町の下水道使用料金は下図に示すとおり2,030円であり、これは兵庫県内の各自治体の平均下水道使用料金（2,779円）と比較すると低い水準となります。



2－（４）経営比較分析表を活用した現状分析①

▶ 経費回収率

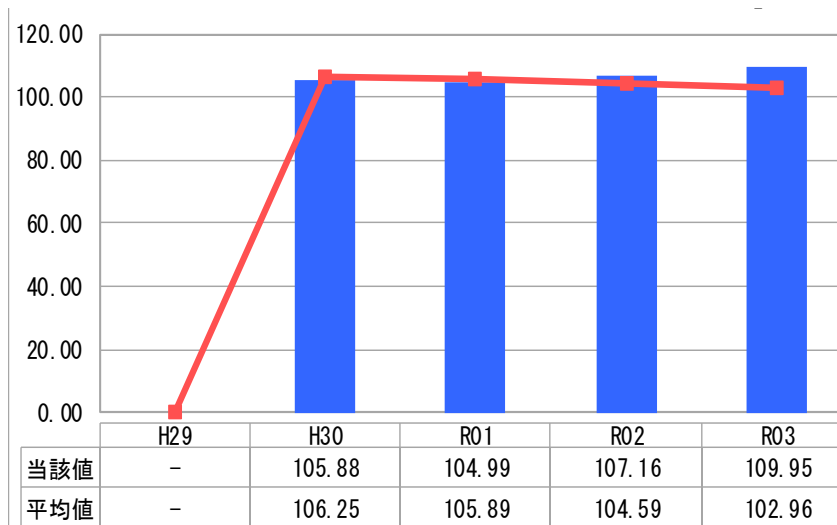
経費回収率については、100%を下回っており、汚水処理に係る費用を使用料収入のみで賄えていません。類似団体との比較においてもやや低い水準にあり、使用料収入とその他の収入のバランスについての検討が必要です。



2 – (5) 経営比較分析表を活用した現状分析②

▶ 経常収支比率

経常収支比率については100%を上回り使用料収入や一般会計からの繰入金等で維持管理費等を賄っており、単年度の収支において黒字となっています。類似団体との比較においても、平均値を上回っており、現時点の経営状況は問題ないレベルであると言えます。



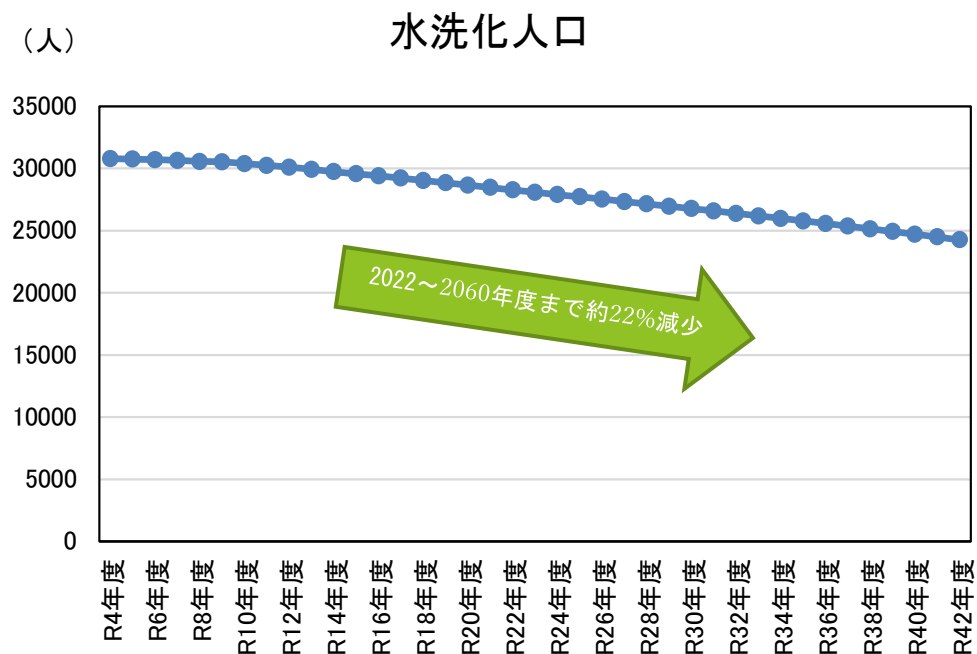
3. 今後の課題

- ▶ 3－1 水洗化人口の減少
- ▶ 3－2 経営状況に関する課題
- ▶ 3－3 維持管理に関する課題



3 - 1 水洗化人口の減少

少子高齢化による人口減少社会の到来により、長期的には播磨町も水洗化人口の減少が予想されます。



※国立社会保障・人口問題研究所に示された2020年～2060年までの想定される予測人口から、普及率及び水洗化率を乗じて算出

3 – (2) 経営状況に関する課題①

▶ 播磨町下水道事業の経営状況

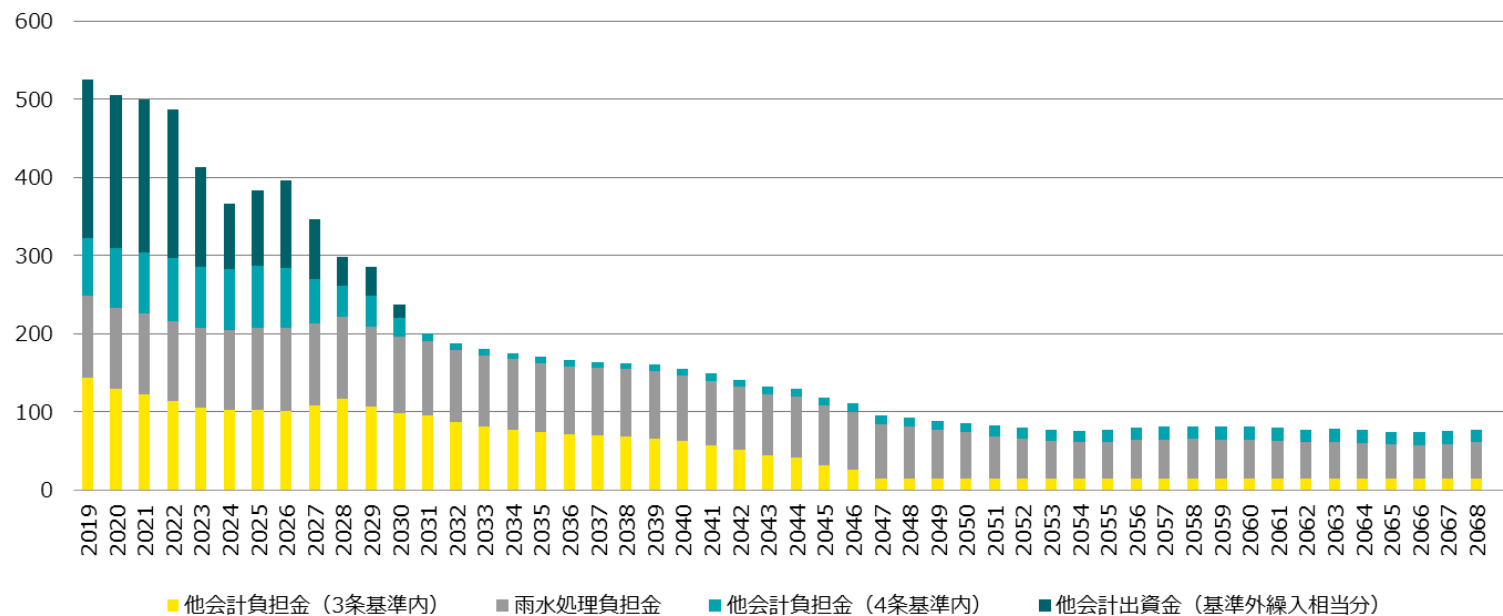
下水道事業は、一般会計からの多額の繰入金に頼って事業を行っています。
(繰入金がなければ事業が成り立たない。)

▶ 経費回収率の向上

独立採算の原則から、経費回収率は100%以上であることが求められています。
(令和4年度決算値で73.84%)

3－（２）経営状況に関する課題②

一般会計繰入金の推移

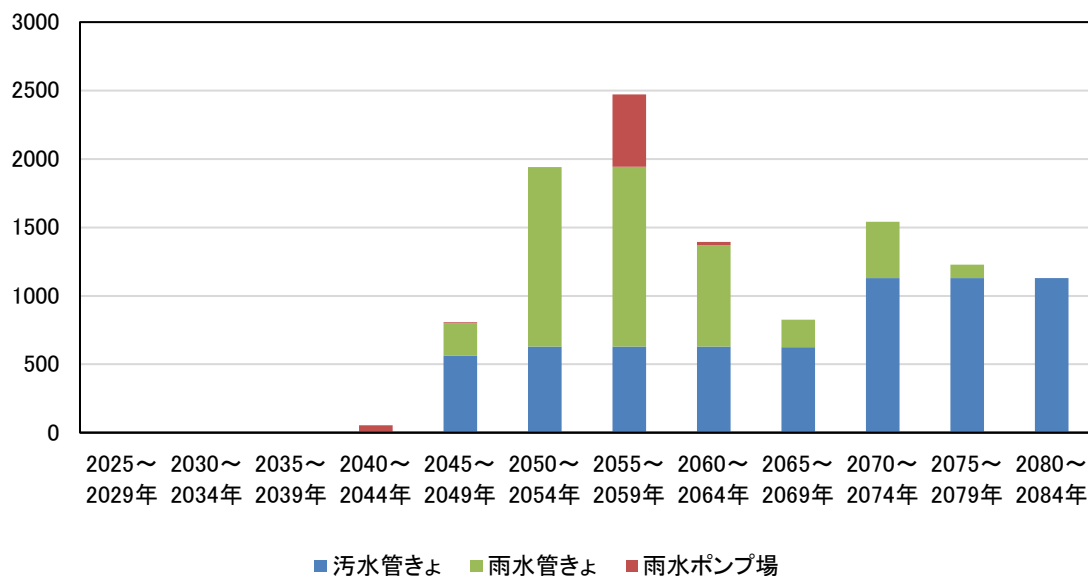


※播磨町下水道事業経営戦略より（平成30年度策定）

3－3 維持管理に関する課題

管路については、今後すぐに更新投資が必要ではありませんが、更新ピークの時期が到来すると更新投資額は短期間で巨額になることが想定されるため更新時期の分散や投資財源の計画的な積み立てが必要です。

(百万円) 施設・設備の更新投資額の将来予測(5年累計)



経営戦略の概要

経営戦略とは、収益・費用に関する現状の「見える化」・将来の「見える化」と財務・投資バランスを取るための施策立案を合わせたものです。

